

インドネシア研修生 有機農業学んで帰国

新庄・AMD A野土路農場

DAフードプログラムの一環で来日。村内で生活しながら、約1畝の農場で牛ふんを使った土作りやアヒル農法など稲と野菜の有機栽培に取り組んだほか、先進地を視察した。

9月30日に村中央公民館で報告会があり、2人は「とても勉強になり、ますます農業が好きになった」「お年寄りがいつまでも仕事を楽しんでいて素晴らしい」「親切にしても

らい、自分の古里のように感じた」などと感想や感謝の言葉を述べた。笹野寛村長が2人に実習修了証を授与。お別れ会も開かれ、交流のあった村民ら約50人が参加した。

帰国後はマリノ地区で有機農業による稲作と野菜作りに取り組み予定。冬にはAMD A職員と新庄村の農家が同地区を訪れ、アドバースすることも計画している。

新庄村のAMD A野土路農場で4月中旬から有機農業を学んでいたインドネシア人のイカワティ・タリブさん(19)と、アンディ・デンラワリ・マッパポリヨロさん(43)が研修を終え、帰国の途に付いた。帰国後は同国スラウエシ島南部・マリノ地区で有機農業の普及に取り組む。

アジアでの有機農業普及を目指す国際医療ボランティアAMD A(本部・北区)のAM



笹野村長(左)から実習修了証を受け取るデンラワリさん(中央)とイカワティさん